



**2023年12月期
第1四半期決算説明会資料**

**株式会社オプトラ
2023年5月12日**



I

2023年12月期第1四半期実績

II

トピックス



I

2023年12月期第1四半期実績

2023年12月期第1四半期実績のポイントを説明します。

ALD装置を中心に新型装置売上が順調に進捗しました。また、自動車・半導体・LED向け等、スマートフォン以外の幅広い分野で、当社新型装置を中心に販売は好調、売上分野も多様化してきております。

スマートフォン市況が世界的に停滞する中においても、カメラモジュールに加え、タッチパネル向け等で、北米関連以外の顧客層でも新たな受注を獲得しました。

売上高は、90億円、前年同期比77.1%増でした。

スマートフォンでは、カメラ高機能化を支えるALD装置販売が増加したこと、IoTでは、自動車分野の車載カメラやヘッドアップディスプレイ等幅広く販売しました。ALD装置や自動車向け新型装置が貢献し、新型装置比率は、37.1%と好調でした。

営業利益は、26億円、前年同期比253.1%増でした。

利益率の高いALD装置販売が寄与したこと、販管費比率も予算内であり、営業利益率が向上しました。その結果、前年同期比で増益となりました。

当期純利益は、14億円、前年同期比133.0%増でした。

ヘッジ目的の為替予約評価損計上がありました。営業利益増益により、前年同期比で増益となりました。

受注高は、95億円、前年同期比30.7%減でした。

スマートフォンでは、タッチパネルやカメラモジュール向けを多数受注しました。

IoTでは、自動車分野の車載ディスプレイ、車載カメラやヘッドアップディスプレイ向けを受注しました。

新型装置比率は、9.6%でしたが、ALD装置において、スマートフォン分野のみならず、半導体やその他分野の他の分野において、

受注を獲得しており、市場需要を喚起する当社研究開発戦略の成果が出始めております。

【全体】

- ALD装置を中心に新型装置売上が順調に進捗。
- 自動車・半導体・LED向け等、スマートフォン以外の幅広い分野で、当社新型装置を中心に販売は好調、売上分野の多様化に貢献。
- スマートフォン市況が世界的に停滞する中においても、カメラモジュールに加え、タッチパネル向け等で、北米関連以外の顧客層でも新たな受注を獲得。

【売上高】 90億円(前年同期比77.1%増) 新型装置比率37.1%

- スマートフォン:カメラ高機能化を支えるALD装置販売増加
- IoT:自動車分野、車載カメラやヘッドアップディスプレイ幅広く販売

【営業利益】 26億円(前年同期比253.1%増)

- 利益率の高いALD装置が寄与。販管費比率も予算内、営業利益率向上。

【当期純利益】 14億円(前年同期比133.0%増)

- ヘッジ目的の為替予約評価損8億円計上(ドル高継続の中で、年間を通じての売上高への計画比プラス効果は、為替予約評価損を上回る)

【受注高】 95億円(前年同期比30.7%減) 新型装置比率9.6%

- スマートフォン:タッチパネルやカメラモジュール向け多数受注
- IoT:自動車分野ダッシュボード、車載カメラやヘッドアップディスプレイ向け受注
- ALD装置:半導体やその他分野での受注獲得

業績ハイライト



(単位:億円)

| | 2022年12月期 第1四半期実績 | 2023年12月期 第1四半期実績 | 前年同期 増減率 | 2023年12月期 業績予想 |
|---------------------|----------------------|----------------------|-------------|-------------------|
| 売上高 | 51 | 90 | 77.1% | 355 |
| 売上総利益 | 21 (41.5%) | 45 (50.5%) | 115.3% | — |
| 営業利益 | 7 (14.5%) | 26 (28.8%) | 253.1% | 86 (24.2%) |
| 経常利益 | 11 (21.6%) | 18 (20.0%) | 64.4% | 86 (24.2%) |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 6 (11.8%) | 14 (15.5%) | 133.0% | 62 (17.5%) |
| 研究開発費 | 6 (13.6%) | 10 (11.1%) | 44.3% | 34 (9.6%) |
| 設備投資額 | 6 | 6 | 6.3% | 56 |
| 受注高 | 138 | 95 | △30.7% | — |
| 受注残高 | 368 | 374 | 1.7% | — |

(注) カッコ内%は売上高に占める割合

2

ポイントを踏まえ、業績ハイライトです。

業績は好調に推移しております。

前年同期比では、増収増益でした。

ALD装置を中心に、粗利率の高い新型装置比率が上昇した結果、利益率が高くなっております。

研究開発費は、10億円と多数の研究開発案件を積極的に進めております。

設備投資は、6億円支出しました。

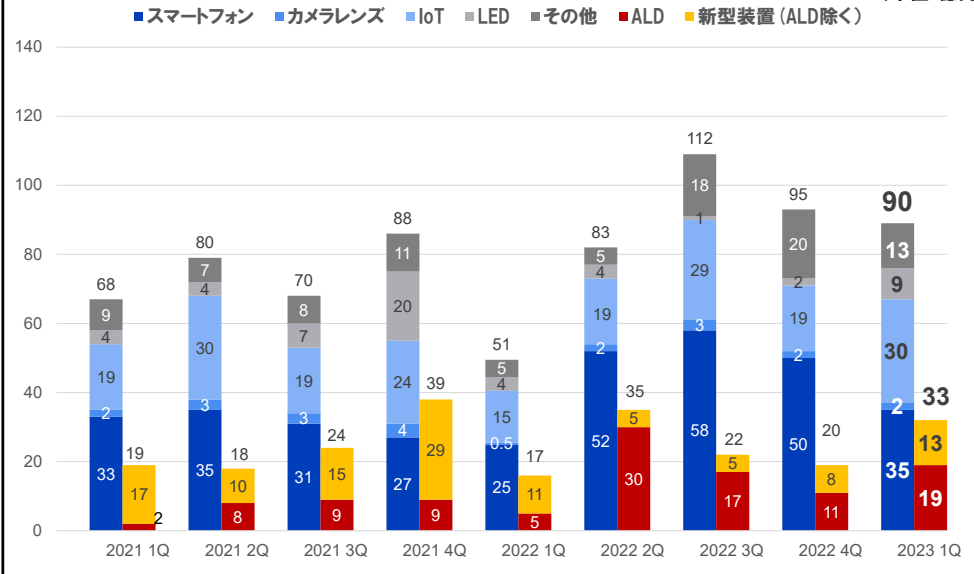
受注高は、95億円、受注残高は、374億円となりました。

分野別売上高四半期推移



- IoTが自動車向けを中心に順調に推移
- 新型装置比率が37.1%に上昇。ALD装置以外にも自動車、LED向けが好調
- 半導体光学融合関連売上は、約16億円

(単位:億円)



分野別売上高の四半期推移です。

第1四半期の売上高は、90億円となりました。

そのうち、スマートフォン分野は、35億円、スマートフォンカメラモジュールが好調に推移しました。IoT分野は、30億円、自動車、AR/VR、半導体分野が貢献しました。

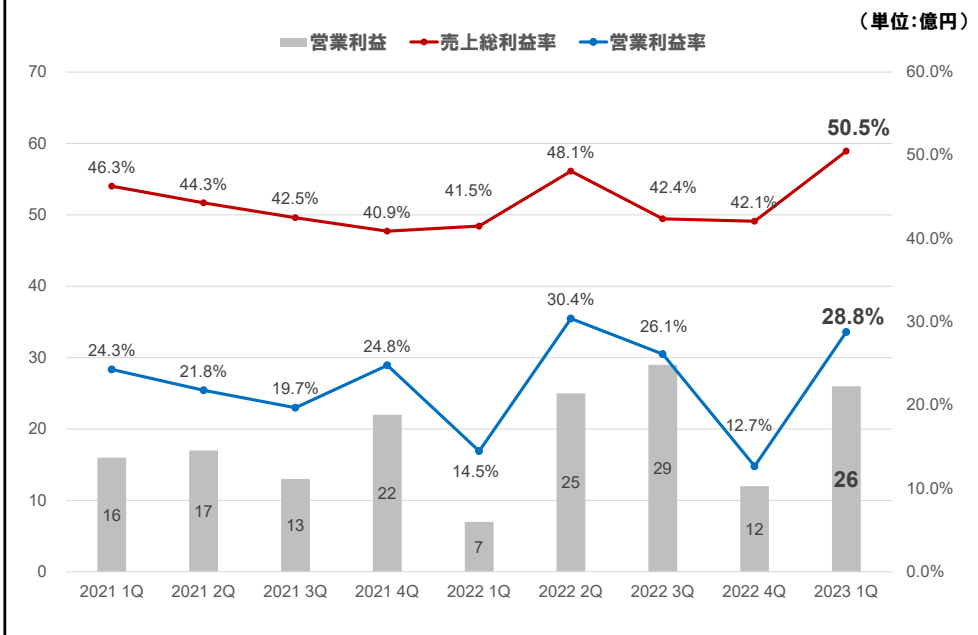
新型装置は、ALD装置、自動車の車載ディスプレイ向けやLED向け装置が好調で、33億円、新型装置比率は、37.1%となりました。

半導体光学融合関連売上は、約16億円、全体の売上の約18%でした。

営業利益・売上総利益率・営業利益率四半期推移



新型装置比率上昇に伴い、粗利率50%超を実現



営業利益・売上総利益率・営業利益率の四半期推移です。
第1四半期の営業利益は、新型装置販売が貢献し、26億円でした。

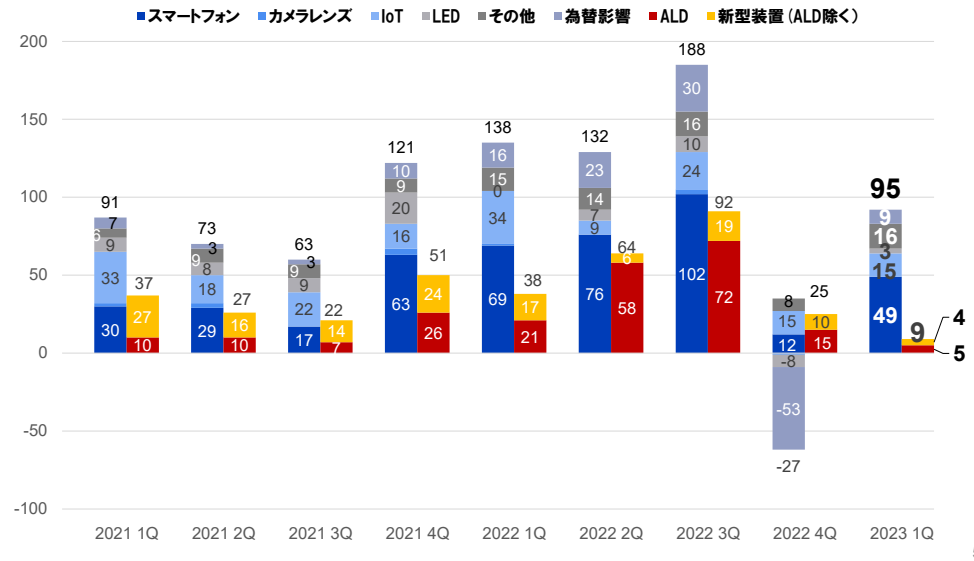
新型装置比率上昇に伴い、売上総利益率は、50.5%、
営業利益率は、28.8%でした。

分野別受注高四半期推移



- ・ スマートフォンは、タッチパネル向け大型受注獲得
- ・ IoTは、車載カメラ/ヘッドアップディスプレイ向けが堅調
- ・ 半導体光学融合関連受注は、約18億円

(単位:億円)

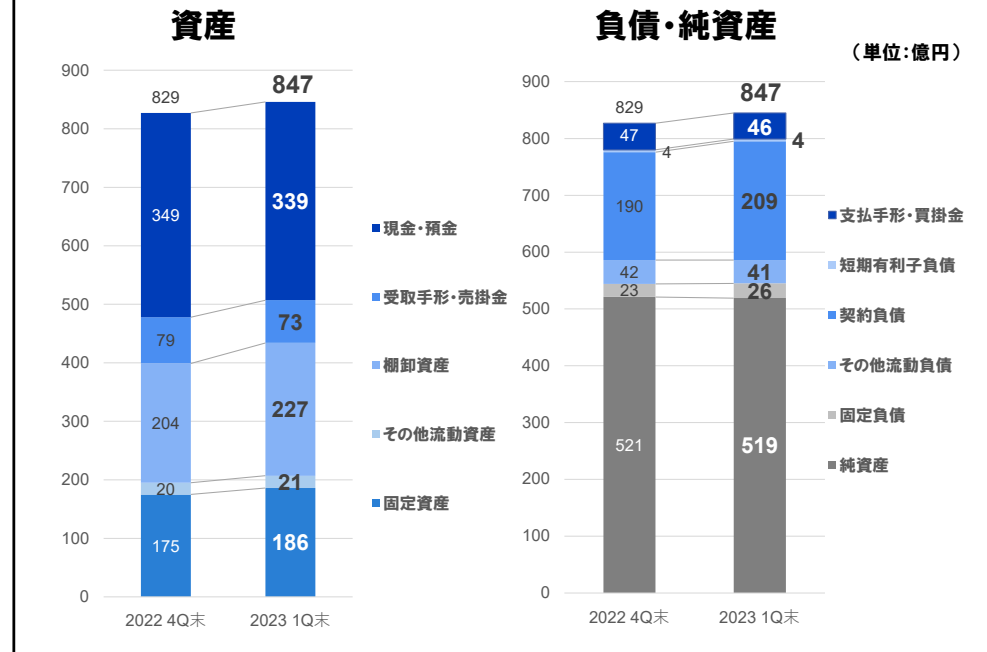


分野別受注高の四半期推移です。
第1四半期の受注高は、95億円となりました。

スマートフォンタッチパネル向けの大型受注を獲得しました。
また、IoTの車載カメラ、ヘッドアップディスプレイ向けが堅調でした。

新型装置受注高は、9億円、
半導体光学融合関連受注は、約18億円、全体の受注高の約18%でした。

連結貸借対照表



連結貸借対照表です。

第1四半期末の資産合計は847億円、前期末と比較し、18億円増加となりました。
増加要因は、仕掛品が増加したことや、部材確保による原材料が増加したことによります。

負債は327億円、前期末と比較し、17億円増加、
増加要因は、受注堅調により契約負債(前受金)が増加したことによります。

純資産は519億円、前期末と比較し、2億円減少、
減少要因は、配当金支払いにより利益剰余金が減少したことによります。



Ⅱ トピックス



投資進捗状況

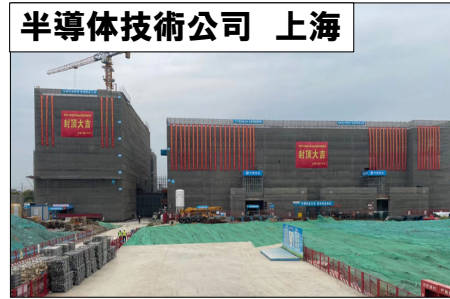


本社 鶴ヶ島



- 半導体光学融合・電子デバイス等
先端分野研究開発(夏頃順次運用開始予定)

半導体技術公司 上海



- ALD装置等の新技術装置の生産・
研究開発(秋頃竣工予定)

ベトナム ハノイ近郊



- 装置設計・東南アジアの顧客への
装置据付・保守修理、部品加工販売
(秋頃稼働予定)

事業環境・事業状況を見ながら
装置生産も視野

7

設備投資進捗状況について、説明します。

日本本社、鶴ヶ島拠点は、半導体光学融合や電子デバイス等、先端分野の研究開発拠点として、現在、建屋の改修工事を進めております。
また、本社機能も移転する予定で、本年、夏頃から順次運用を開始する予定です。

中国上海の光馳半導体技術有限公司は、ALD装置等の新技術装置の生産・研究開発拠点として、工場建設を進めております。
先月、上棟が完了しており、本年、秋頃竣工予定です。

ベトナムにおいて、ハノイ近郊に装置設計、据付、保守修理、部品加工を行う拠点として拠点整備を行っております。
本年、秋頃稼働予定です。
将来の事業環境・事業状況を見ながら、将来は装置生産も視野に進めております。

新たな3拠点を加え、グローバルかつ各拠点地域の特色を生かし、グローバルに地政学リスクに対するリスク分散や

3Dや半導体光学融合の先端技術に対する需要は拡大傾向

- スマートフォンカメラの高機能化
- 自動車ディスプレイ高機能化、各種カメラ・センサ搭載数増
- AR/VR技術進化余地大(成膜ニーズ大)

| | |
|---------|---|
| スマートフォン | 世界的に買い替え需要が落ち着いている中においても、ハイエンド機種での機能向上需要は強い。 カメラモジュール： 大判化や新たなカメラ機能を搭載する比率が上昇する動き |
| 自動車 | 車載カメラ：安全装置搭載ニーズの拡大、自動運転レベル向上に伴い、1台当たりカメラ搭載率上昇 車載ディスプレイ：タッチパネル化 LIDAR・ミリ波レーダー： ADASシステム搭載車増加、自動運転高度化により拡大 |
| AR/VR | ヘッドマウントディスプレイ：個人を中心に拡大基調 VRゲーム等がメイン、B to BでのVRトレーニング需要見込む スマートグラス：個人・ビジネスとも今後拡大 ハンズフリーでの作業可能、遠隔作業支援 |

8

市場動向について、説明します。

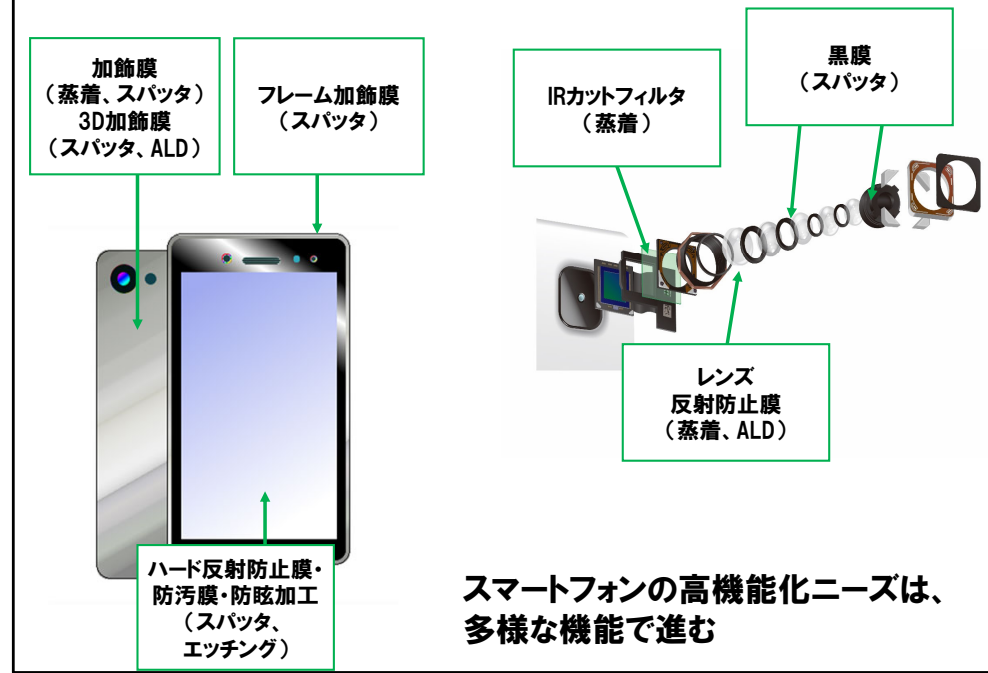
3Dや半導体光学融合の先端技術に対する需要は拡大傾向にあります。

スマートフォンでは、世界的な買い替え需要が落ち着いている中においても、ハイエンド機種での機能向上需要は強く、とりわけ、カメラモジュールでは、大判化や新たなカメラ機能を搭載する比率が上昇する傾向にあり、高機能化は続くものと見込みます。

自動車では、安全装置搭載ニーズの拡大、自動運転レベル向上に伴い、1台当たりのカメラ・センサ搭載率が上昇することやLiDARやミリ波レーダー等の需要の拡大や車載ディスプレイのタッチパネル化等、高機能化ニーズがあります。

AR/VRでは、ヘッドマウントディスプレイやスマートグラスが、個人利用やビジネス利用ともに拡大しており、今後のさらなる普及や技術進化余地が大きく、成膜ニーズもさらなる拡大を見込みます。

成膜・装置 スマートフォン

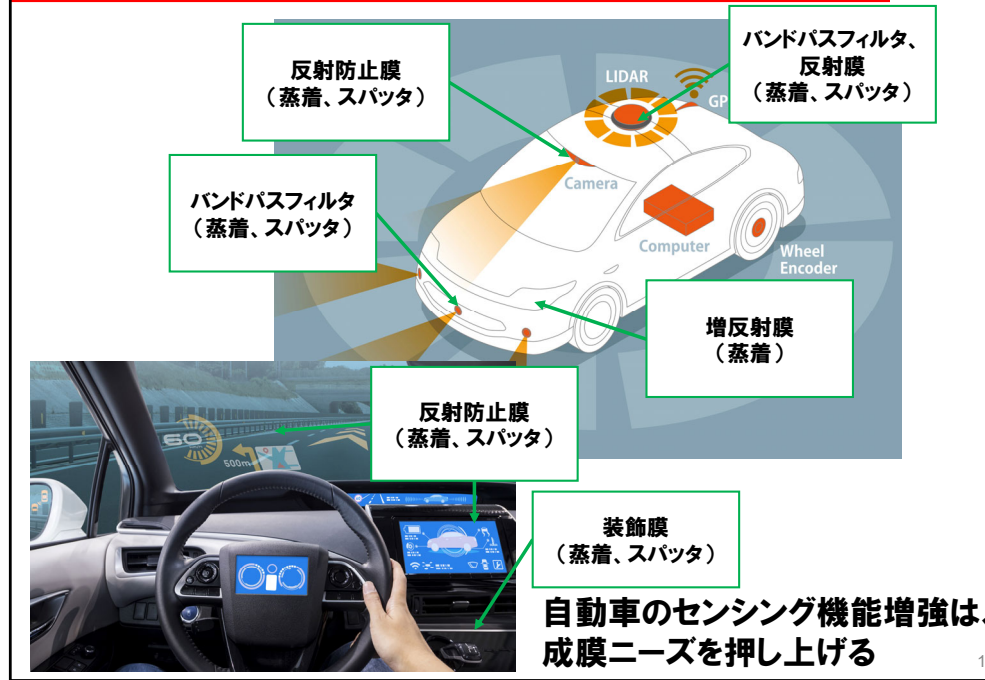


本スライド以降は、各最終製品における成膜例及び当社対象装置について、説明します。

スマートフォンでは、カメラモジュールにIRカットフィルタ、反射防止膜や防汚膜等、成膜しております。カメラの画質向上、感度向上、センサの3Dセンシング機能向上等の高機能化ニーズに対応しております。

筐体や、フレームへの加飾膜、
タッチパネル部分には、ハード反射防止膜、防汚膜、防眩加工等、
外観の見栄えや手触り等をよくする機能を付加しております。

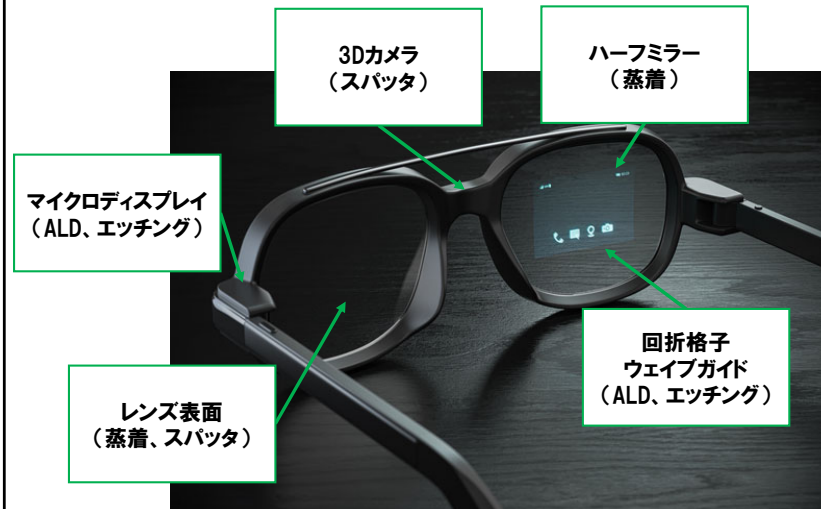
スマートフォンの高機能化ニーズは、多様な機能で進んでいきます。



自動車では、安全性能向上や自動運転レベル向上に伴い、カメラの高解像度化やLiDAR等のセンシング機能範囲拡大、車載ディスプレイの高機能化等の技術的進化が著しくあります。

カメラ・センサへの反射防止膜、バンドパスフィルタや、ヘッドランプ・LEDの輝度アップに貢献する増反射膜、車載ディスプレイは、大型化や、スマートフォン同様の表面質感を求めるニーズが拡大、ヘッドアップディスプレイ普及に伴う成膜需要等、成膜ニーズ拡大が見込めます。

自動車のセンシング機能増強は、成膜ニーズを押し上げます。



AR/VRでの技術革新は、
微細加工・3D成膜が支えていく

11

AR/VRでは、ヘッドマウントディスプレイやスマートグラスへの成膜需要を見込みます。

カメラやディスプレイ部分への成膜ニーズがあり、製品自体の小型化も求められており、微細加工技術が必須です。とりわけ、当社が数年来、重点的に研究開発を行っているALD装置やエッチング装置が重要となります。ディスプレイの高解像度化、高精細化、高輝度化、カメラ・センサの高精度化への技術要求に対応してまいります。

AR/VRでの技術革新は、当社が得意とする微細加工・3D成膜技術が支えていきます。

中期ビジョン



- 半導体光学融合、さらには電子デバイスも加え、事業領域を拡大
- スマート社会への貢献



今後は、半導体光学融合から、さらには新エネルギー等の電子デバイスも加え、事業領域の拡大を目指します。

既存の光学技術を基盤に、半導体光学融合技術を深化させ、電子デバイスへ技術対応を図るため、グループ全体でのより一層の研究開発を強化し、不足する技術は他企業との連携図り、市場ニーズ・顧客ニーズに対応してまいります。

事業基盤拡充を通じ、スマート社会へ貢献するとともに、企業価値向上を図ってまいります。

免責事項・注意事項・問い合わせ先



当資料に記載された内容は、2023年5月11日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

【問合せ先】

E-mail: ir-info@optorun.co.jp TEL: 03-6635-9487